

30

千代田区景観まちづくり重要物件

海老原商店

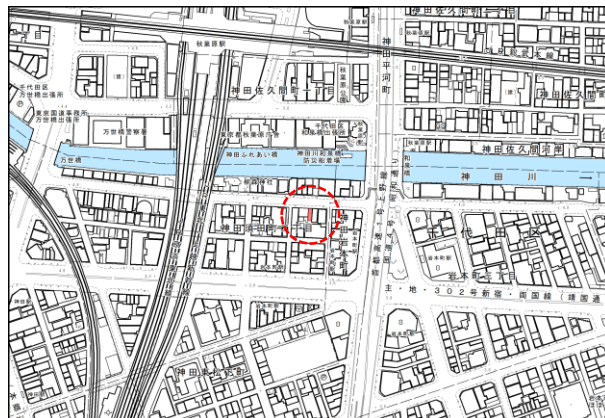
指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 神田須田町二丁目 13 番地 5

設計者 海老原保蔵、黒沢武之輔（ファサードデザイン）

竣工 1928（昭和 3）年

文化財等
指定状況 景観重要建造物



▲海老原商店

歴史・文化的特徴

神田須田町二丁目から柳原通りを中心に、明治初期に生まれた古着屋街から発展した生地・既製服問屋街が広がっています。

海老原商店は、柳原通りに面する古着を扱う老舗として人々に親しまれてきました。

1945（昭和 20）年 2 月 25 日の空襲の際に、地域住民の必死の消火活動で奇跡的に焼失を免れた地域であり、当時は周辺にも同様の看板建築が多く残っていました。

2020（令和 2）年に、千代田区の景観重要建造物第 1 号として指定されました。

意匠・構造の特徴

当時、看板建築のファサードは大工の棟梁の手によるものが多かったのですが、当建物は画家の手によるデザインで、隣接する銅板貼りの看板建築に比べると洋風の色合いが濃く、バランス良くまとまっています。

1,2 階はタイル貼りを基調とし、2 階部分には色モルタル、屋根には銅板という具合に多様な材料が使用されています。

周辺景観との関係

周辺は神田川に沿って看板建築が集中して残っていた場所で、震災復興期を象徴するような歴史的景観が形成されていました。

周辺の建替えが進んではいますが、まち全体がヒューマンスケールであり、建物が醸し出す雰囲気により、親しみのある景観を形成しています。